

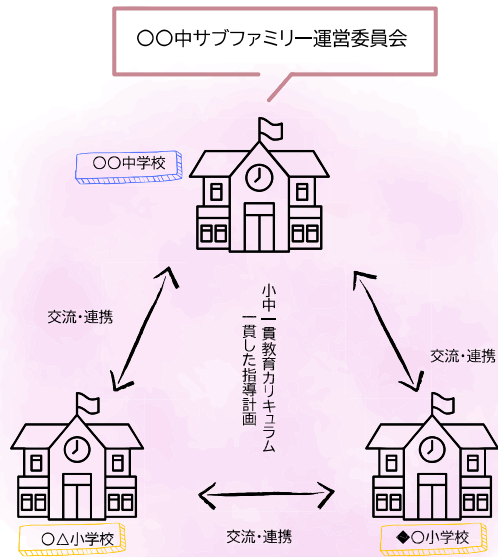
学校ファミリーを基盤とした

北区の小中一貫教育と特色ある取組

北区では、小・中学校の教員が、義務教育9年間を通して一貫した計画的・系統的・継続的な学習指導及び生活指導を行い、児童・生徒の「知」「徳」「体」の調和のとれた「生きる力」の育成をめざして小中一貫教育を実施しています。

学校ファミリーとは

- ・区立のこども園・小学校・中学校で構成された、質の高い教育を実現しようというネットワークです。
- ・中学校1校と通学区域の重なるいくつかの小学校・こども園からなる「サブファミリー」(以下、「SF」)ごとに活動します。
- ・授業交流や教員研究の合同実施、幼児・児童・生徒の学校行事の交流など、1校だけではできない様々な連携・交流活動を協力して実施しています。



1つのSFには、区立小学校2~4校、区立こども園を含む



北区の小中一貫教育とは

- ・北区の小・中学校では、平成24年度から、全中学校を中心とした12のSFにて小中一貫教育を実施しています。
- ・各SFでは、SF運営委員会を設置し、児童・生徒の学習状況等の情報交換を十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導計画を意識し、授業改善に取り組んでいます。
- ・教員は授業において、北区小中一貫教育カリキュラムを活用し、9年間を見通した小・中学校の連続性のある指導をしています。
- ・小・中学校の独自性は保ちつつ、義務教育の9年間を円滑に接続させることで確かな学力の定着を図っています。
- ・中1ギャップから生じる学習意欲の低下や不登校問題等、児童・生徒の指導上の課題解決にも取り組んでいます。

北区小中一貫教育カリキュラム

カリキュラムを活用することにより、9年間を見通した小・中学校の連続性のある学びを実践していきます。

	前期(小学1~4年)	中期(小学5~6年)	後期(中学1~3年)
知	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の素地を養う。	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成する。	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をさらに高め、個性や能力を伸長させる。
徳	基本的な生活習慣の定着や、集団生活のルールを身に付ける。	将来への夢や希望をもち、目標に向けて努力する態度を培う。	自己有用感をもち、自らの生活を見つめ将来を展望する。
体	活動を工夫して、各種の運動を楽しくできるようにする。その基本的な動きや技能を身に付け、体力を養う。身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。	活動を工夫して、各種の運動を楽しくできるようにする。その特性に応じた基本的な技能を身に付け、体力を高める。心の健康、怪我の防止及び病気の予防について、理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさを味わう。知識や技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践できるようにする。健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。

施設一体型小中一貫校

義務教育学校「都の北学園」(令和6年4月開校)

北区立施設一体型小中一貫校設置基本方針の趣旨を踏まえ、神谷中SFを構成していた神谷小学校、稲田小学校、神谷中学校を統合し、北区初の義務教育学校「都の北学園」が令和6年4月に開校しました。児童・生徒は、前期課程(小学校相当)が1~6年生、後期課程(中学校相当)が7~9年生となります。

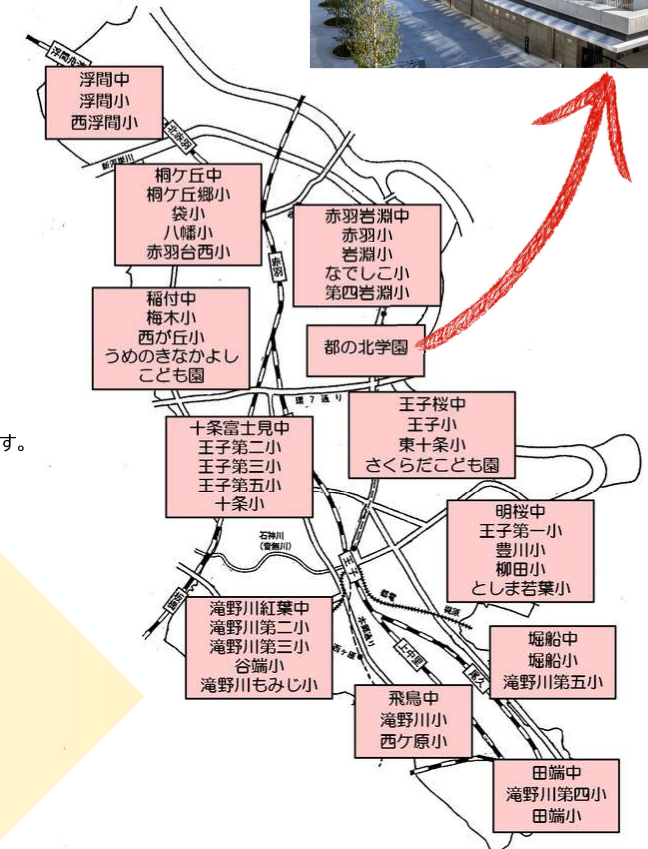
義務教育学校での教育内容を検証し、教育的成果を区立学校・園で活用することにより、北区全体の小中一貫教育の更なる充実と向上を図ります。

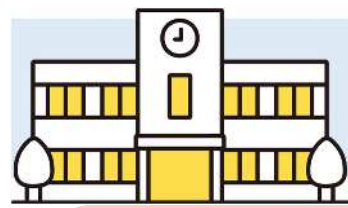
都の北学園の取組み

- ・教科担任制の導入
前期課程5・6年生を対象として、一部の教科について、教科担任制を導入しています。
- ・前期課程6年生の部活動への参加
授業以外での児童・生徒の相互交流による健全育成を図るため、前期課程6年生は、希望すれば後期課程の部活動に参加できます。



北区サブファミリーマップ





北区の各学校ファミリーによる特色ある取組み



王子桜中サブファミリー

【一人一人のよさや違いを認め合う教育環境づくりの探究】

「教育のユニバーサルデザイン」の視点を生かした授業づくり、学級づくりを目指した研究を進めています。3年目の今年はこれまでの成果をふまえ、発達障がいを含む特別な配慮や支援を必要とする子どもへの支援に限らず、どの子どもにも「あると便利で役に立つ支援」を増やしていくことを一層意識した研究を進めていきます。さらに幼小中の連携に一層力を入れていきます。具体的には校種の枠をこえて、園児・児童・生徒の発達段階をふまえ、切れ目のない支援や指導ができるよう、引き続き組織的に研究・実践に取り組んでいきます。



個々の学びを支えるグループ学習

十条富士見中サブファミリー

【豊かな人間性の育成】

日常の授業をはじめ、様々な教育活動を通して、「できた」・「わかった」・「伝えられた」という実感をもたせ、一人一人のよさを認めたり、ほめたりする経験から自己肯定感や思いやりの心、生命尊重の心、他者との信頼関係を築く力など必要なスキルを育み、児童・生徒の豊かな人間性の育成を図ります。



活動の様子

明桜中サブファミリー

【持続可能な社会づくりに向けた小中一貫教育の一層の推進】

地域の子どもは地域で育てることを念頭に、学力調査の結果を踏まえサブファミリーの子どもの課題に応じ小中学校の教員で連携した授業の実施やファミリーの小学6年生が中学校に集合し開催するアスレチックチャレンジなどを引き続き展開します。ファミリーでの活動を通して、小学校・中学校のそれぞれの良さや文化を理解し、異なる校種の教員を尊重し合える雰囲気醸成していきます。



小学校6年生の授業体験

堀船中サブファミリー

【児童・生徒のよりよい人間関係を基盤とした授業づくり】

主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、カギとなるのが「人間関係」です。児童・生徒が互いに思いや考えを受容する関係をつくることで安心感が醸成され、より一層、思いや考えを自由に表現することができるようになり、対話的な学びがさらに充実するものと考えています。そこで、令和3年度から継続して、自他を大切に作る人間関係力の向上をテーマとして、より良い学習集団の育成をめざし、サブファミリー共通の授業スタイルの実践や、行事等での連携を深めています。



研究授業風景

稲付中サブファミリー

【国際理解教育】

幼・小・中での国際理解教育を通して、広く世界を見つめ、日本人としての自覚と誇りを持ち、国際社会に主体的に貢献し、共生社会を共に生き抜いていく資質・能力を育てます。また、オリンピック・パラリンピックレガシーアワード校での取組を通し、「豊かな国際感覚」の醸成をねらいとして、スポーツを愛し、平和な社会や共生社会の実現を見据えた世界に貢献できる資質・能力を育成します。



ファミリー水泳記録会前に行われた
オリンピック講演

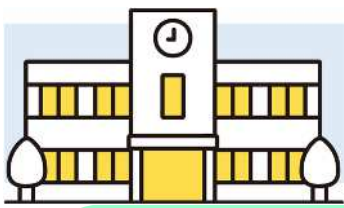
赤羽岩淵中サブファミリー

【学びをつなぎ生きる力を育む教育】

小中一貫した流れの中で、つまずいている学習内容を共有することや、一人1台端末「きたコン」をはじめとしたICT機器を活用した深い学びを推進します。また、防災に関する活動も継続しています。小中合同引き取り訓練や生活安全協議会を実施することで、保護者・地域と連携した防災教育を推進します。



小中合同引き取り訓練



北区の各学校ファミリーによる特色ある取組み



桐ヶ丘中サブファミリー

【ESD】

「持続可能な開発のための教育（ESD）」を小中学校が連携して推進し、何事にも意欲的に取り組み、これからの社会の変化に主体的に対応できる児童生徒の育成を図ります。国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標（SDGs）に向けて、17のゴールに関連した学習活動を進めます。



ファミリーの日の授業風景

浮間中サブファミリー

【学力の定着・向上】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を実践することで、学力の定着・向上を図ります。また、小中9年間で一貫した学習規律や生活習慣等の確立を進めます。授業研究以外にも、合同行事、児童・生徒理解に研究の幅を拡げています。



協議会の様子



授業風景

田端中サブファミリー

【主体性を磨き、生きる力を育む活動】

小・中学校が相互に関わり9年間通して、たばたの100冊（読書活動、NIE教育、特別活動の3部門を田端中ファミリーの柱の取組として活動します。活動を通して、子どもが主体的に学び、豊かな感性を磨き、幅広い知識を得ることを目標にします。そして、社会への関心を高め、考える力や表現力、想像力等、生きていく上での大切な力を育てていきます。



ファミリーの活動



たばたの100冊

滝野川紅葉中サブファミリー

【学びをつなぎ豊かな人間性を育む教育】

「主体的に学び、すすんで表現する児童生徒の育成」を共通のテーマとし、教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深め、授業改善の視点を共有化して授業実践に取り組みます。

滝野川地区の特色ある教育資源を活用するとともに、伝統野菜の「滝野川ごぼう」の栽培など、地域に誇りをもつ活動や地域とかわる活動を推進します。



滝野川ごぼうの栽培



飛鳥中サブファミリー

【連続性のある主体的・対話的で深い学びの実現に向けて】

「主体的・対話的で深い学び」について、小学校から中学校へと連続性をもって実現するため、各分科会においてサブテーマを設定し、研修を深めています。

実技教科による「作品交流展」や、学校図書館活用教育の一環としての「本のPOP交流」、さらに、飛鳥中学校教員とサブファミリー小学校教員による「TT授業」などを実施しています。

今後も、3校それぞれの特徴を生かした取組を継続し、より一層充実した教育活動を推進していきます。



TT授業の様子

都の北学園

【「小中一貫教育」のフラッグシップ校】

「小中一貫教育」のフラッグシップ校として令和6年4月に開校しました。義務教育9年間の切れ目のない一貫性のある学習・生活指導や、学校行事での異学年交流を行い、9年間を通じて系統的に子どもを育てています。



応急処置法（赤十字奉仕団）

特に、体験学習に基づく防災・減災教育は4・7年生の協働、農業体験は区内唯一の特色ある教育活動であり、5・8年生の協働学習へと展開をしています。